

ても他の資料と同様の分析を行った。しかし本作品は、過去の引用や資料の改作を相当数含んでいるため、その時代を反映した言語資料として不的確さを感じた。したがって本研究の対象資料から削除した。

(17) Bergsträsser (1983) p.173.

(18) 辞詞 qad については、池田 (1981) および Nishio (1990) を参照。

(19) 資料⑦, ⑧には、'in の用例がないため空欄となっている。

(20) 2.2の表参照

(21) 2.2の表参照

(22) 英語の when が if の意味をもつと同じ現象である。

You shall have it *when* you say, "Please". 新英和大辞典 (1980) p.2409.

Liberty is useless *when* it does not lead to action. ランダムハウス (1966) p.3096.

(23) al-Taḥṭāwī (1801-73) は、上エジプトに生まれアズハルで学んだ。1826年学生の指導者 (imām) として渡仏し、フランス啓蒙思想の理解を深める。帰国後、翻訳学校長、官報編集長、また自らも精力的な執筆活動を行い、エジプトにおける近代散文文学の偉大な先駆者の一人と認められている。al-Taḥṭāwī はエジプト近代文明に重要な役割を果たしたが、厳密な意味での純文学者として高い評価を受けているわけではない。代表的な著作 Taḳlīṣ al-'ibriz fi taḳlīṣ Bārīz は、当時としては珍しく、簡潔、容易で読みやすいものであった。文学的な点からは、彼は主に近代アラブ散文文学の文体の発展に貢献した。Brugman (1984) pp.18-24.

彼の条件文に関する理解の揺れの原因を推測するにはさらなる比較分析が必要である。

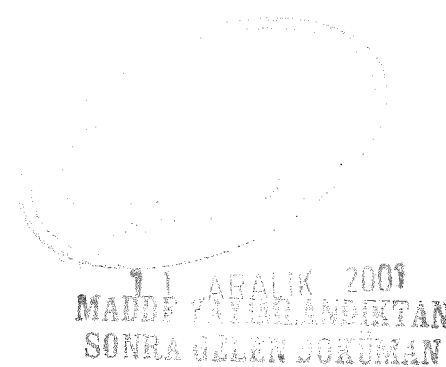
(24) ナポレオンのエジプト侵入 (1798) 以降エジプトは急速に西洋の影響を受け、新しい幕開けを迎えた。西洋様式の学校、印刷所、新聞、雑誌の出現は、閉鎖的、伝統的、因習的な過去の決別の一要因となった。Hitti (1950) p.745.

al-Taḥṭāwī は、西洋文化の浸透に多大な貢献を果たしたと言えよう。

(25) 注 (14) 参照

(26) 注 (12) 参照

(27) 注 (13) 参照



Modern Arab Thinkers and Modernization:

Al-Ṭāhir al-Ḥaddād on Islam, Progress and Social Emancipation

Tarek Chehidi*

Table of Contents

Japanese abstract	1
1. Studies on al-Ḥaddād	2
2. The main rudiments of al-Ḥaddād's thought	3
3. Al-Ḥaddād on human nature and the character of the course of the history of mankind	6
4. Al-Ḥaddād on reforms, thought and activism as remedies to social misfortune	8
5. Education and <i>al-zaytūnah</i> in al-Ḥaddād's writings	10
6. Al-Ḥaddād on the Tunisian labour movement	13
7. Al-Ḥaddād and the Tunisian women	16
8. Conclusion	20

要旨

アラブ世界における近代化問題に関する論争は、多くの関心を集めてきた。その結果、アラブ社会とその近代化の試みに関する研究（特にエジプトのムハンマド・アリー期以降）が多数生み出されてきた。その研究の多くは、アラブおよび非アラブの思想家たち（彼らの思想は、彼らと同世代および後の世代が近代化を認識して望まれるべき社会・政治的再建が行われるに至ったスペクトルを形成したと考えられる）に焦点を当てている。

その思想家たちの関心と行動を形成したとされる基本的仮定としては、(a)その知識層はイスラームの環境によって生み出され、且つ、彼らの動機は2つの最も大きな一神教

* The author is presently a Ph.D. candidate at the Department of Area Studies of Sophia University, Tokyo, Japan.